



# じょくそう 褥瘡について



国保成東病院  
皮膚科  
こめだ ようこ 医師  
米田 洋子

化など、いろいろなことが関係しています。

## 「褥瘡の予防と治療」

一つ一つの原因を取り除いていくことが大切です。まず圧迫とそれに対しても、体位変換が重要です。2時間以上同じ体位でいると圧迫部に褥瘡ができやすくなります。

「褥瘡とは」  
身体の一部に持続する圧迫が加わった時にできる皮膚の障害をいいます。特に身体の活動が低下している時にできやすくなります。症状が軽ければ皮膚が赤くなるだけですが、程度が強くなると皮膚のびらんや潰瘍になります。大きくなると直径で20cm程にも達することがあり、床ずれともいいます。

「褥瘡の原因」  
大きな原因としては、圧迫と重みで下になつた部分の皮膚が阻血状態になることです。自分で寝返りをうてないと同じ姿勢を長時間とることになり、圧迫の影響が出やすくなります。肩、腰、仙骨部、踵などが必要です。身体の重みで下になつた部分の皮膚は摩擦があつてすべり落ちにくくなっています。ここで、体の内部と皮膚の表面で引っ張られる方が働きます。これががずれです。圧迫にすれが加わると、阻血状態が強くなり褥瘡ができやすくなります。特に仙骨部は圧迫とすれの影響を受けやすく、注意が必要です。

その他の原因としては、食欲の低下、栄養状態の悪化やこのためによる痩せ、もともと持つている病気、オムツの使用、汗などで皮膚が過度に湿潤していること、皮膚の老になります。肩、腰、仙骨部、踵などが必要です。次に、ずれ

についてですが、寝ている状態から上半身をリクライニングで傾斜させたとします。この時、体の重みで体は下の方にずり下がっていきます。

一方、背もたれに当たる所は摩擦があつてすべり落ちにくくなっています。ここで、体の内部と皮膚の表面で引っ張られる方が働きます。これががずれです。圧迫にすれが加わると、阻血状態が強くなり褥瘡ができることがあります。

褥瘡があつても、入浴禁止ではありません。全身状態にもよりますが、可能なら入浴し清潔を保つようにしましょう。

成東病院では、各部門から成る褥瘡対策チームを作り、予防と治療に対応しています。入院時の褥瘡のリスクのチェック、リスクに合わせたマットの選択や褥瘡のハイリスクの人にはエアマットの使

用などを行っています。成東病院訪問看護を通して、皮膚科医師の往診も可能です。

褥瘡は一度できてしまふと治るのに時間がかかります。深いものだと数か月はかかります。また、薬を塗れば治るというものではありません。全身状態の改善がなければ治疗にかかるです。できてしまつてからの治療より予防が大切です。

全身状態の改善がなければ治療にかかるです。できてしまつてからの治療より予防が大切です。

最近ではいろいろな体圧分散用具が開発されているので、エアマット、ビーズ枕などを使用すると効果があります。次に、栄養状態の改善ですが、栄養は予防にも治すのにも重要です。通常の食事が取りにくい場合、やわらかく吸収の良い補助食品がいろいろ開発されています。

褥瘡があつても、入浴禁止ではありません。全身状態にもよりますが、可能なら入浴し清潔を保つようにしましょう。

## 第27回外来糖尿病教室

テーマ「地震対策と糖尿病」  
大地震発生、その時あなたは・・・?

もしもの大震災に備えて、今からできることと一緒に考えてましょう。防災袋の中に入れておく物や震災時の写真などの展示もあります。

今からできることと一緒に考えてましょう。防災袋の中に入れておく物や震災時の写真などの展示もあります。



訪問看護ステーションの皆さん

こんなにちは、成東病院訪問看護ステーションです。わたしたちは、皆様のご自宅に訪問して、病状観察から始まり、ケアや処置、相談対応などを

場所	国保成東病院 南棟
参加費	無料
日付	午後1時半～午後4時 (受付 午後1時から)
問い合わせ	国保成東病院地域医療連携室

(82)2521